

平成23年度第2回中国地域発展推進会議 議事録（概要）

- 1 日 時 : 平成23年10月26日（水）16:11～17:50
- 2 場 所 : 岩惣 2階 管絃の間（広島県廿日市市宮島町）
- 3 出席者 : 会長 石井岡山県知事、副会長 山下中国経済連合会会長  
平井鳥取県知事、溝口島根県知事、湯崎広島県知事、二井山口県知事  
清水鳥取県商工会議所連合会会長、宮脇島根経済同友会代表幹事、  
中島岡山県経済団体連合会座長、深山広島県商工会議所連合会会頭、  
林山口県商工会議所連合会会頭 他

4 議 事 :

- (1) インバウンド観光事業について  
(2) 温暖化対策について  
(3) 中国地域の諸課題に係る意見交換  
(大規模広域的災害への対応・国出先機関廃止に係る広域的实施体制の検討)

5 結 果 :

- (1) インバウンド観光事業について

(広島県)

- ・(資料に基づき説明)

(山下副会長)

- ・5県連携のインバウンド観光振興の重要性はこの会議で大分議論され、限られた予算ではあるが、着実に施策を実行していると確信している。
- ・PDCAを回しながら従来事業の改善や新規の施策を行うことが大事であり、引き続き5県連携の効果が発揮できる事業を展開してまいりたい。
- ・中部地方以西の西日本エリアの広域連携の取組について、モデルルート集を更に充実したものにしており、現在は西日本エリアの広域観光組織、経済団体が連携して、東のゴールデンルートに対抗できるコースを開発していく取組を行っている。12月には中国のエージェントを招いて視察ツアーを実施する予定。
- ・推進協議会会長を2年前から中経連が引き受けており、昨年より独自の事務局を中経連内に設置し、中経連やJRからの人員派遣で運営している。また、インバウンド事業推進委員会事務局の運営に関しては、広島県に人件費等の負担を含め多大なご尽力をいただいております。将来的には5県連携事業という趣旨からも、皆様方の御理解を得た上で、各県で人員の交代を含めて対応していただければ、各県の負担が均一になるのではないかと考えている。

(鳥取県商工会連合会・清水会長)

- ・鳥取県は中国地区の一番東端に位置しているが、空港は米子空港、鳥取空港の2カ所がある。米子空港は従来からソウル便等を発着して観光客を招いているが、やはり今年の大震災によって減少して、それが最近ようやく復元してきたということで、アップダウンが起きていることは認めざるを得ない。鳥取空港でも近年、県・市で環日本海拠点都市会議等々いろいろな行動を起こしておられ、特にロシアのウラジオストクなどとの交流もあり、普通成田から行くと一日がかりだが、直行便で行くと1時間40分ぐらいで

着く。時間、距離が大切になってくる。今年も試験的に向こうから乗ってきてもらい、降りてもらう。こっちから人を乗せて向こうに行く。2日おいてまた同じことをやると両方の効果が出るということで、そういうのも直行便でやったりしている。

- ・平井知事におかれては、上海からの航空路開設も取り組んでおられるが、やはり鳥取県としては、韓国、ロシア、中国との空路の開設、それから海のほうでDBSクルーズを鳥取県で企画されて、韓国の東海、ウラジオストク、それから境港ということで、物流と人的交流を図っている。これもシーズン、風評によって一時ダウンしていたが、最近は盛り上がってきているのではないかと感じている。
- ・ただ、海外の認識度が山陰は弱く、今日もフェリーで降りたら、観光旅行者を招いて中国地区内を毎日案内していると聞いたが、そういうことをしていただくと島根、鳥取も有効に利用していただけるのではないかと思うし、鳥取に入られたお客様を岡山、島根とネットワークを組んで今後活用していただくことも、これから相乗効果を期待するところ。
- ・鳥取県も空、海、いろいろと環日本海をにらんだ行動を展開しているので、この会議でいろいろとバックアップしていただければありがたい。

(鳥取県・平井知事)

- ・来年で言えば平清盛、そして島根県は神話博、私どもは国際マンガサミットをやる。来年は目白押しの年。こういう年に、私はどこかにターゲットを絞って大キャンペーンを、これは広域連合の議論とも裏腹の関係で、仕掛けてはどうかと思う。
- ・例えば中国。今、東日本大震災でお客さんがずいぶん減っているが、そうしたところにターゲットを絞って、仕掛けてみてはどうか。私は実は昨日まで中国に行っておりましたが、なにせ知名度がない。東京だとか、そうしたところに負けている。せめて九州ぐらいの知名度を統一感をもってつくらなければいけない。その意味で中国の話を上上げたが、韓国でもよいと思う。共同で事務所をつくって、向こうでエージェントを使ってキャンペーンを張るぐらい元気を出してやっついていかないと局面は変わってこない。ぜひ皆さんのお力添えをいただければありがたい。

(島根経済同友会・宮脇代表幹事)

- ・東南アジアの観光客は東京、京都、大阪ばかり行っていたが、そのうち東北とか、だんだん地方に行く。中国、韓国、台湾が多いと思うが、特に韓国を見ても、鳥取に来てゴルフをしたり、東京や大阪ばかりじゃなくなってきている。メジャーマーケットである東南アジアの人たちが海外旅行に行き始めて、数年たつと東京ばかりじゃなくて、だんだん移ってくる。そのときの受け皿として、いろいろなプレトレーニングとしてやるのは非常によいと思う。
- ・島根県でいうと、1.7%のうちほとんどが広島で、なかなか島根まで回っていただけない。一つは、コンテンツをきちんとお知らせしていない。もう一つは、社会インフラとしての道路が整備されていない。これは経済界としても、松江尾道線のほかに山陰道とか、知事と一緒に陳情しているわけであるが、とりあえず疲弊している地方経済の中で外国人観光客の1万人が10%増えても1千人なので、それよりも国内観光客を呼ぼうじゃないかと。それと入込み客数ではなくて、そこに落ちたお金。今までの国交省のカウントだと、1人がトリプルカウント、フォースカウントしているわけだから、100万人がせいぜい増えました、でも地元商店街は「どこが景気がいいんだ」というところがあって、これはGDPでやろうと。
- ・実は長年かかって中海・宍道湖地域の山陰文化観光圏を国交省から認定された。組織の目標値は、域内GDP、観光GDPでいくらくのか。初年度は大変成功したが、これはNHKの朝ドラや、鬼太郎ロードや、あるいは遷宮があったりしたが、国内観光客をまず呼ぼうじゃないかと。これから古事記編纂1300年を節目とした事業があって、我々経済界は何が一緒にできるのだろうか。先の経済同友会関西地区懇談会のときに

梅原猛さんと藤岡大拙さんとの出雲王朝の対談をしたが、非常に好評だった。これからも我々経済界としてできるもの、行政の一つの大きな仕組みの中で一緒に連携していけるものを作っていききたい。

- ・ こういう会議の中でいろんなノウハウなり、私もずいぶん勉強させていただいて、いろいろと組織、人は替わっていくが、ぜひこの仕組みだけは継続して、それまでのデータベースなりを利用して、近い将来にいずれやってくる外国人観光客に対応できる仕組みを構築しなければいけない。
- ・ また、例えば古事記編纂1300年事業をやるに当たって、観光客が「古事記1300年のために来ました」と言われたとき、県民が「それ、何のことですか」と言っちゃうとガッカリするので、県民の皆さんに、今やっていることや古事記の中身、スサノオの話だとか、そういったものも周知徹底して、一緒にリテラシーを上げていくというのが将来的に大きなホスピタリティーになる。これはぜひ産学公民一緒にできる話なので、そういうかたちで進めていききたい。
- ・ いずれにしてもインバウンド観光については、私どもも十分勉強させていただいたし、これからもいろいろなかたちで継続事業になるようであるが、一緒にやらせていただきたい。

(島根県・溝口知事)

- ・ 中国地方全体のイメージがなかなか伝わらない。個別にいくつかはあるが、全体として伝わって、広域的な観光が複数この地域で行われるようにすることが課題であるが、そのためにできるところから進めることが大切。
- ・ 鳥取県とは山陰というくくりで広域観光をやってきた。今般も「神話博しまね」を来年の古事記1300年にかけて行うこととしており、鳥取県は同じ時期にマンガの世界の博覧会を行うということで相乗的な効果を狙っていこうということ。
- ・ また、例えば世界遺産ということであると、宮島と石見銀山が中国地方における世界遺産であり、これも連携したような取組をやっている。そうすることによって点と点が線につながり、線がつながって面になっていくということではないか。
- ・ いろいろな事業、あるいは情報発信を共同でやっていくことを、できるところからどんどんやるようにしたいので、経済界におかれてもよろしくお願いを申し上げる。
- ・ 「神話博しまね」を来年の7月21日から11月11日、島根県の神在月が始まる頃まで百十数日間、出雲大社の横の古代出雲歴史博物館でやってまいる。鳥取県は、水木しげるさんの境港とか、ほかの地でも有名な漫画家の方たちがおられていろいろなイベントをやられる。来年の10月から12月にかけてはJRのデスティネーションキャンペーン、山陰両県を一つのターゲットにしてやろうということに進んでいる。こういうものが山陰の線につながると同時に、中国地方として南北でもつながるように工夫をしていく必要があるし、その可能性はかなりある。
- ・ その関連で申し上げますと、交通網の整備は大事な課題。山陰方面においては、山陰道の早期完成ということで、鳥取、島根、山口県一緒に協力して国等に働きかけている。国も少しずつ整備も進んできて、道路については完成間近のところ資金を投入して早く完成させようというのをここ2年ぐらいやっており、そういうものが進むと今度は新規のところにつけることが可能になる。そういう動きも見ながら、ぜひ経済界と一緒にやっていききたい。
- ・ これはまだアイデアの段階だが、「神話博しまね」が来年夏から秋にかけてあるというシールを年賀状の「あけましておめでとう」の横に貼るようなことを考えている。会社でもいろいろなことをお出しになるから、そういうときにお願ひできればということで、これから経済界とも御相談していききたい。

(岡山県経済団体連絡協議会・中島座長)

- ・ 観光について、とにかくお客さまに来ていただく交通手段が一番に必要。過去の経験で

あるが、交通手段がなければ、来てほしい、来てほしいと言ってもどなたも相手にしてもらえない。韓国便を飛ばすとき、大韓航空は親会社がハンジンという船会社で、私どもの取引先。取引先の子会社が飛行機会社ということで、一番にあいさつに行って、「それじゃおまえのところに、岡山県に飛ばすぞ」というようなことをいただいた。その後、広島県知事が後を行かれて2番手をやられたと聞いているが、とにかく情報は早くつかんで、早く相手と接触して、何とか利用していただきたいと考えている。

- ・台湾だが、非常に台湾の方は日本びいきであり、日本へ行きたくてたまらない。ところが関空とか東京、成田には行くのだけれども、岡山県には飛行機が飛んでいない。何とかしたほうがいいんじゃないかという話で、県知事がすぐ台湾へ誘致運動にいて、やっところさ11月からチャーター便が飛ぶようになった。これも非常に知事が熱心におやりになった結果だと思っている。やはり情報を聞いたときに、一番に早くキャッチして先方と接触することが非常に大切。
- ・そういうことで、台湾ともこれから飛行機が飛ぶようになるが、韓国、中国とも飛ぶようになった。行政と民間が一緒になってやったほうが早く結果が得られると思うので、中国地方全体としてもぜひお願いしたい。

(石井会長)

- ・中島座長はじめ経済団体のトップの方と一緒に台湾に行って、三三会という経済団体のトップの方々にもてなしをいただいた。その結果、今お話のチャーター便がたくさん飛ぶようになって大変ありがたく思ったが、岡山にせっかく来ていただいて、岡山を見ていただいて、そこそこにすぐ関西へ行かれるルートなんです。中国地方となるとなかなかアピール性が弱いので、ぜひ今日の趣旨に沿って、中国地方ということを一丸となってアピールできればと願っている。
- ・みんなでプロモーションに行きましょうということは大賛成であり、これは継続的にやらないといけない。1回だけじゃなくて、次も、またその次もということで連続して行くと、我々の熱意が通じるのではないかという感じがしている。

(広島県商工会議所連合会・深山会頭)

- ・広島県も中国地方と同じような傾向であり、外国人のみならず国内の宿泊者も非常に少ない。宮島、平和公園、原爆ドームを見て、宿泊施設に通過している。
- ・修学旅行生も年間31万人来ているが、ほとんど宿泊されていないということで、現在まで取り組んできたのは、国内の修学旅行生を山間部とか島嶼部で農業体験、漁業体験をしてもらおうということ。広島で平和学習をして、そこで泊まって、次に山間部、島嶼部へ行くということを始め、国内では今年4千人近くが広島を訪れることになっている。
- ・これを国外にも広げてはどうかということで、去年から中国の大連に行って、大連は広島空港との直行便があるので、インバウンド事業を我々も重点事業の一つに掲げている。中国からの観光客誘致に係る様々な事業を展開して、まず向こうの経済界トップ、商工会議所会頭などに会ったが、広島、中国地方に来たことがないとおっしゃるので、こちらも今年2回行ったし、先方もこの秋に会頭一行が広島に来て見ていただけることになった。

(広島県・湯崎知事)

- ・インバウンドであるが、これまで発展推進会議の中で観光を推進する様々な取組が行われて、パンフレット類、モデルコース、あるいは共同のプロモーションということで成果が着実に上がりつつある。
- ・広島県もインバウンド推進委員会の事務局を県庁に置かせていただいており、ある程度の事業を実施してきた中で、次のステップに行くためにはいくつかの課題があると思っている。というのは、やはり連携、協働して進めていくと、これまでの段階のレベルの

ものであれば非常にうまく、円滑にいく。これからさらに次のステップに入っていこうと考えると、例えば共同の事務所を置くとか、観光を共同でやっていくことに対して自己主張を抑えることが必要になってくる。つまり各県が、例えば広島県は広島県にっぱい来てほしいということでどんどん主張していくと、これはうまくいかなくなってしまふ。共同で全体のパイを広げていくためには、ある程度自己犠牲、ぐっと我を抑えて全体最適ということに取り組んでいかなければならなくなる。そういう段階が近づきつつあると個人的に感じる。

- ・そういう意味で、先ほど広域連合で観光を取り扱う、これはある意思決定の仕組みの中で実行できるということで、だんだんふさわしい体制になっていくと感じる。各県の観光連盟が1つの組織の下で、1つの長の下で運営されているように、本格的にやろうと思うとそういうステップに上がっていかなければいけない。今すぐにそういう状況ではないと思うが、次の段階としてそういうことを考え始めなければいけない。
- ・今それに向けて具体的な提案をさせていただきたいということではないが、ある程度の権限、あるいは予算執行、そういったことを任せられるような仕組みも今後考えていく必要がある。今すぐの課題というよりも、将来そういうことがあるということを頭に置いて、また広域連合等の話の動向等も踏まえながら、おいおい考えていくのかと感じている。

(山口県商工会議所連合会・林会頭)

- ・中国地方のインバウンド観光客のウエイト1.7%、この軽さを痛切に感じさせられている。しかも下関港に来日された方がすぐ九州に行くという声がしばしばあるわけで、中国地方は知名度が低いという話もあったが、いかにしてこれから取り返していくかしっかり考えなくてはいけない。私どもの競争相手という九州だが、九州は我々より知名度があり、これからどう挽回していくのか、しっかり考えなければならない。

(山口県・二井知事)

- ・インバウンド観光の関係で、大きく二つの視点から考える必要がある。
- ・一つは、山口県は山東省と姉妹提携をしており、来年がちょうど30年、それから韓国の慶尚南道と姉妹提携をして25年ということで、できるだけこれをきっかけにさらに交流を深めたいということで、山東省とは今年6月に観光交流の促進に関する合意もした。各県もそれぞれ姉妹提携、友好協定がありましようから、自分のところだけではなく、そのような機会に中国地方はこういうところだということ併せてPRすることも考えていったらどうか。それから姉妹提携、友好協定を締結しているということは、お互い行き来をすることになるから、来てもらうということは、相手の、例えば山東省に我々山口県民も行くということなので、お互いの相互互惠主義の観点に立ってやる分野が一つはあるだろう。そういう中で、お互い交流を深めながら中国地方をPRしていこうというのが第1点と、やはりそういう相互互惠じゃなくて、中国地方にどんどん来てもらうためには、お互い連携して、まさに今やっているインバウンド観光の連携をさらに強化してPRしていくことが大事だろうから、今やっていることをさらに充実していく方向で、さらなる努力を連携して重ねていったらよいのではないか。
- ・4年後に山口県でボーイスカウトの世界ジャンボリーをやる。世界からボーイスカウトが約3万人ぐらい山口県に来るので、これを機会にできるだけ研修で幅広く行っていただくプログラムをこれから組みたい。ただ、先ほど交通機関、道路網の整備ということがあったが、10日ちょっと山口県でキャンプをして、そこから交流、研修に出るというかたちになるので、あまり遠いところには行けないかもわからないが、少なくとも広島県には平和教育の関係でいろいろなボーイスカウトが来られるとか、そういうプログラムを組む中でできるだけ対応をしていくことも考えなければいけない。我々のほうでいろいろ検討した上でお願いしなければならないことも出てくると思うので、その際はよろしく願いたい。

## (2) 温暖化対策について

(中国経済連合会)

- ・(資料に基づいて説明)

(山下副会長)

- ・二点ほどお話しさせていただく。一つは、今後の地球温暖化防止の世界的な枠組みはまだ不透明な状況であるが、やはり私どもが温室効果ガスの削減努力をやっていかなければいけないというのは変わりがないわけであって、引き続き各県、私ども経済団体との連携により施策の実施、フォローアップをお願いしたい。
- ・もう一つは、新エネルギーの開発・普及であるが、国の政策としてFIT、いわゆる固定価格買取制度ができた。具体的ところはまだ決まっていないが、基本的にはこういう新エネルギー技術の開発向上のために政策を進めていくことが、ひいては地球環境問題の対策につながっていく、こういう趣旨だと思う。
- ・したがって、これを国民全体で負担するか、あるいは電気の利用者で負担するか、いろいろ議論があったと思うが、今回は経済界も含め、電気の利用者のお客様で負担していこうという仕組みであり、今後は勉強会などを通じて、制度をよりよいものにしていただきたい。

(広島県商工会議所連合会・深山会頭)

- ・私ども会員企業のほとんどが中小企業であり、企業に対して環境問題に関するアンケート調査を実施したところ、環境行動の重要性はわかるが、どう取り組めばよいのかわからない。認識のレベルにかなりのばらつきがあるという結果が出た。各業種、各規模に応じた企業の具体的な取組事例をもっとホームページでPRする必要があるのではないか。
- ・普及啓発活動を効果的に行うためには、啓発する側自らも率先して行動する姿勢を示すことが必要。私どもの事例で申し上げますと、商工会議所事務局職員、70数名おりますが、全員が環境社会検定試験(エコ検定)合格を目指せということで、今8割方取得をしており、そういったこともやっている。

(鳥取県商工会議所連合会・清水会長)

- ・鳥取商工会議所では、鳥取県環境管理システム、TEASと呼んでいるが、これを会議所で取得して、できるだけ温暖化対策の取組を広げていこうと。やはり中小企業が多いので、いかにPRしていくかにどう取り組むかということで、今年度から環境対策特別委員会を設置して、アンケート、実態調査をやりながら、TEASの指導も始めてということで根気よく、これからPRしていこうと。
- ・それから、中小企業でも風力、水力、いろいろ関心を持っていただいて、できるだけそれに対して、努力しながら新製品開発しながら取り組んでいこうという動きをしている。

(岡山県経済団体連絡協議会・中島座長)

- ・中小企業でエネルギーを開発しようということでやっている。水の利用について非常に関心が強いが、水の利用となると農業用水を利用するわけで、これは農林省の規制が厳しく、水が勝手に使えない。家庭用の電気を起こそうと思ってちょっと点けただけでも怒られるということで、そういう規制を打破していかないと新しい商品が生まれません。

(島根経済同友会・宮脇代表幹事)

- ・我々経済界は、LEDとか、どうしてもビジネスに絡んだもので何か変えられないかとなってしまふ。環境は、どちらかというところとは離れた意識の部分が非常に大きく、

これは女性にやっていただいた方がよいのではないかと。女性の、奥さん連中とか、婦人団体連合会とか、そちらのほうは非常にまともな考え方をなさっている。女性が考えている温暖化とかCO<sub>2</sub>とか、非常にまっとうである。どうしても我々経済界で考えると、これはビジネスにならないとか、そこに雇用とかそういったものがあると王道のように走っていくが、女性のきちんとした人たちの活動も一緒にインボルブしていくのはすごく大きいような話が出た。

(山口県商工会議所連合会・林会頭)

- ・山口県商工会議所連合会でエコツアーに取り組んだ。下尾常務から、その実情を報告させる。

(山口県商工会議所連合会・下尾常務)

- ・CO<sub>2</sub>削減、省エネの先進事例視察として商工会議所連合会で9月20日に計画をしたエコツアーに31人の方に御参加いただき、北九州のエコタウンの企業を視察した。参加者のアンケート結果を見ると、リサイクル技術、エネルギー再生技術など非常に参考になったということで好評であった。今後もこういった先進企業の取組方法を御紹介いただく機会をつくっていただいて、ベンチマーキングしながら先進事例を取り入れていくことが効果があるのではないかと。
- ・今回は北九州へ行ったが、遠くの県の方は御出席できなかったというようなこともあるので、開催地をばらまいて、次回は東側のほうでやるようにしてはいかかがか。

(鳥取県・平井知事)

- ・1点だけ、どうしても時節柄、話題にしておかなければいけないと思うのは節電、この冬の節電をどうするかということ。我々の間で、今日どのように申し合わせをしておくのか。関西とかほかの地域では数値目標を設定するので喧々譁々の議論をしている。山下会長もおられるので御示唆いただければと思うが、各方面に聞いてみると、原発についていろいろ問題はあるが、幸い中国電力のお力によってこの冬は何とか乗り切れる目途は立っていると伺っている。
- ・ただ世間全体の状況もあるので、節電については民生部門やオフィス部門でできるだけ節電を呼びかけていく。産業部門については競争力を失ってはいけないので、それはむしろ消費していくというぐらいであるが、基本的には「中国地方も節電を大きな目標として掲げる。ただ、数値目標はあえて設定をしない。それぞれの県で頑張ってください」というぐらいで今日はまとめておいたほうがよいのではないかとこの思いがあり、あえて発言させていただいた。

(山下副会長)

- ・出身会社の話でもあるので、それも含めて話をさせていただく。
- ・節電については、この夏は目標は立てなかったが、皆様方には節電のお願いをして、この夏の総括をしてみると、少し気温が低かったこともあるが、企業、それから家庭の皆様方が節電をされたおかげで十分に乗り切ることができた。その分余った電気は東京と関西へ送らせていただいて、日本全体にとっては大変助かったのではないかと考えている。
- ・我々も、これからも節電についてはぜひともお願いをしなければいけない。この冬は数値目標は立てていないが、できるだけ節電についてはお願いをして、電気が余れば、九州も厳しいし、関西も厳しいので、送っていきたくて考えている。日本全体で乗り切っていきたいと思っているので、それでよろしいのではないかと私は思っている。
- ・もう一つ。産業界は、今回は勤務シフトしたりして苦労した。勤務している社員の皆さんが大変苦労している。だから、できるだけ家庭・オフィスで節電の努力をしていくというのが基本ではないかと思っている。

(石井会長)

- ・具体的な数値目標ということは別として、できるだけ節電意識をこれからも継続的に高めるよう努力をしていきたい。そういうことでよろしくお願いしたい。

(3) 中国地域の諸課題に係る意見交換

[大規模広域的災害への対応について]

(山口県)

- ・(資料に基づいて説明)

[国出先機関廃止に係る中国地方の広域的实施体制の検討について]

(岡山県)

- ・(資料に基づいて説明)

(島根経済同友会・宮脇代表幹事)

- ・連合だが、これは観光と違ってナショナルセキュリティーというか安全保障に関する提携をするわけだから、10万都市と100万都市が提携してもうまくいかない。同じような20万都市ぐらいで、同じ規模での連携、しかも同時に災害を受けない山陰と山陽とか、そういうかたちの連携をしていくと非常によいのではないか。かなり本気でいろいろな連携、行政も医療も、派遣にしてもいっぱいあるわけだから、経済界としても平時はその中の各都市の企業との技術提携とかに発展すればすばらしいのではないかと個人的に思う。
- ・日本は三層の支配、国と県と地方自治体。ところが、実際は3.5階建てじゃないか。つまり、国と県の間を整備局というのがある。例えば島根県の町村を見ると、県土木よりも数倍の金を持っている整備局のほうを向いてしまう。権限の廃止が問題ではなくて、当然中央省庁の持っているコアな権限の移譲だから、分権というのはそういう意味だと思う。コアな権限は当然予算とセットメニューで動くわけだから、これが全部ほかへ行ってしまうと、当然要らなくなる。それができることはすばらしいと思うが、やっぱりそういうことなのですか。

(石井会長)

- ・すべての事務を移譲するかどうかについては、まさにこれから大きな検討課題になる。今、受け皿づくりとして、広域連合であればということで国のほうで議論がこれから進んでいく。野田総理がそういう発言をされた。法律を出すと。ただ出先機関の事務が、どれがどのように来るかというのは、まさにこれから大きな議論が始まっていくのだと思う。

(島根経済同友会・宮脇代表幹事)

- ・小さな権限移譲はできたが、コアなものが来ないのは経済界としても非常におかしいとずっと申し上げている。

(石井会長)

- ・セットです。権限、財源、一緒でないと我々としては受け止めることができない。場合によっては必要な人員も含めて。そうでないと難しい。これは大きな議論になる。
- ・島根県のように、まだこれからハード整備、インフラ整備が必要だということと、いろいろ各県によって事情も違うので、慎重に協議を進めてまいりたい。